

加西西国 三十三ヶ所 霊場めぐり



加西西国三十三ヶ所霊場のめぐりについて
加西市は、兵庫県のほぼ中央に位置し、北部は中国山地の南麓に接し、南部は播磨平野が広がっています。
温暖な気候にも恵まれ、この地には早くから仏教文化が伝播し、多くの寺院が建立されました。

江戸時代中期に入ると、民衆の寺社参拝熱は高まり、西国三十三ヶ所や四国八十八ヶ所霊場のめぐり、お伊勢参りや熊野詣などが盛んとなりました。

当地においても、西国三十三ヶ所霊場を模し、加西西国三十三ヶ所霊場のめぐりが整備されました。しかし、いつの頃からか巡礼者は少なくなり、民衆からも忘れられるようになりました。

このたび、加西西国三十三ヶ所霊場を再びご紹介することになりました。多くの方がこのパンフレットを手に、先人の歩んだ寺院を巡ることにより、自然に恵まれたふるさと加西の歴史や文化遺産にふれていただければ幸いです。

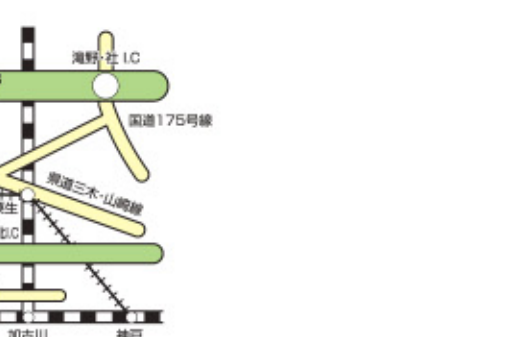


交通アクセス

Traffic Access



■大阪方面から
大阪 50分
加古川 25分
東生 22分
北条町 22分
■岡山方面から
岡山 30分
姫路 50分
北条 22分
■中国ハイウェイバス大阪方面から
大阪 90分
北条 22分
■中国自動車道を利用して、加西ICより市街地まで5分
■山陽自動車道を利用して、加古川北ICより市街地まで10分



加西西国三十三ヶ所霊場めぐり

第1霊場



安永山 梁法寺
本尊 釈迦如来
西国本尊 聖観世音菩薩
宗派 曹洞宗
住所 加西市北条町横尾3

元は市北部現在の大内町にあり善昌寺と称していましたが、承応元年（1652）に当地に移築、然安永郡和向を請う新寺の開山とし、寺号も梁法寺に改めたと云われています。参道を登り山門を入ると、正面に大きな本堂があります。平成12年に改築されたもので、正面向拝の彫刻が精巧で西隣の唐沢風等の彫刻は見事です。また、本堂西の香格庵と呼ばれる美しい中庭に立つ全高6mを超える石造聖観世音菩薩像は、危除け、ほけ封じ、長寿祈願などに霊験があると信仰を集めています。加西西国第1霊場を飾る壮麗な寺院です。

第6霊場



金輪山 阿弥陀寺
本尊 阿弥陀如来
西国本尊 聖観世音菩薩
宗派 真言宗
住所 加西市別所町1

当寺は、法道仙人が一庵を結び密行を修したる処に始まり、時を経て、寛文年間（1660～）隆崇上人の開基で、文政6年（1823）に大火により坊中を焼失しましたが、その後11世住職隆如法印が7年の歳月をかけ、本院と阿弥陀寺を再建し寺域を整えたと云われています。美しい袖廊をもつ山門をくぐると、正面に千鳥破風を持つ客殿があり、西側に庫裏、東側に宝形造の本堂と配しています。昭和60年に拡張された広い境内には、背高な鐘楼堂や石造十三重塔、不動明王、修行大師像などが並んでいます。また、背後の山には、西国霊場八十八ヶ所のめぐりがお祀りされています。

第2霊場



瑠璃光山 国府寺
本尊 薬師如来
西国本尊 十一面観世音菩薩
宗派 天台宗
住所 加西市殿原町37

国府寺と書き「こうでら」と読みます。建久年間（1190～）に桓尾明恵上人の開基と伝えられています。山門上のユニークな表情の唐獅子瓦が参拝者を迎えてくれます。山門から生垣に沿って進むと本堂があります。本堂は、弘化8年（1846）に建立され、入母屋造、檼瓦葺で、妻側を正面にしており、立派な獅子口瓦や懸魚、二重彫梁などを見ることが出来ます。また当地は、奈良時代の観音堂寺跡とも云われ、発掘調査により、今の山門の左右に塔と金堂、前方に門、本堂後方に僧坊らしき遺跡が確認され、法隆寺式伽藍配置の立派な寺院があったことがわかっています。

第7霊場



蓮菜山 普光寺
本尊 千手観世音菩薩
西国本尊 千手観世音菩薩
宗派 天台宗
住所 加西市河内町1449

白雉2年（651）法道仙人の開基と伝わる古刹で、中世には播磨六山の一つとして栄えたお寺です。今も山門から続く長い参道には、坊跡と思われる石垣や段平地が残し往時を偲ばせています。仁王門は享保11年（1726）、本堂と鐘楼は昭和45年に再建されたものです。近年は多くの信信徒により、日本一の大きさとも云われる春日灯籠や多数の石灯籠、仏石や観世音菩薩像などの石造品が寄進されています。また、境内には希少なヒメハルゼミやモリアガエルの生息地としても知られ、最近では本堂前の湧き水が名水として人気を呼んでいます。

第3霊場



千嶺山 千山寺
本尊 十一面観世音菩薩
西国本尊 十一面観世音菩薩
宗派 真言宗
住所 加西市上道山町116

加西市史によると、開基は不詳ですが、延慶元年（1808）の「播磨国田上庄島名寄注文」に「千山寺前」の文字があり、14世紀初めにはすでに創建されていたと思われると記されています。急な石段を登ると真新しい山門があります。幅一軒の薬師門で、妻飾には、獅子が彫像を噛む迫力ある彫刻（獅噛）が施されており貴重です。山門は平成14年に改築されましたが、獅噛は旧門のものを利用してあります。山門を入ると正面に客殿、南に本堂があります。本堂は、向拝を設けた宝形造で昭和8年に改修されています。さらに南には、背後の山嶺から続く岩度があります。

第8霊場



玉生山 宝泉寺
本尊 弘法大師
西国本尊 十一面観世音菩薩
宗派 真言宗
住所 加西市和泉町75

元は同町内の岡の山という所にあり玉生山正明寺と称していましたが、慶長9年（1604）に現在の地に移し寺号も宝泉寺と改めたと伝えられています。山門をくぐると、庫裏、位牌堂、本堂が並び、その前に手入れされた苔庭が広がっています。その庭の中に、市のふるさとに樹に指定されているクロガネモチの大本がそびえています。平成に入り、鐘堂、位牌堂、山門、護摩堂などが改築され美しい堂宇を見せています。裏山には、西国霊場八十八ヶ所のめぐりが整備され、奥の院道中には、当寺創建の法道仙人像が小さな洞穴の中に祀られています。

第4霊場



有明山 金剛院
本尊 阿弥陀如来
西国本尊 如意輪観世音菩薩
宗派 真言宗
住所 加西市上万願寺町411

白雉2年（651）法道仙人の開基で、当時は満願寺と称し諸坊を有する一大霊刹でした。現在も町名に万願寺の名を残しています。しかし、天文7年（1538）の兵火により金剛院を焼失しました。その後、元禄元年（1688）高野山より恵隆上人を招請し再興したが今の金剛院と云われています。境内には、一頭石仏と呼ばれる修行大師像があります。満願寺金剛院は、満（万）の字をお願いできるお寺。一頭石仏は1つのことを聞いてくださる有難い仏として信仰を受けています。東に隣接する東光寺は、市内最古の梵鐘（1850年作）で、毎年1月8日に撞される田遊び・鬼会で有名です。

第9霊場



圓重山 明光寺
本尊 阿弥陀如来
西国本尊 観世音菩薩、勢至菩薩
宗派 真言宗
住所 加西市西野々町277

加西郡誌によると開基は不詳ですが、火災により堂宇を焼失したため、寛政5年（1793）に本堂を再建したと伝えられており、創建はそれ以前に遡ると思われる。山門をくぐると、正面に庫裏、西側に本堂があります。本堂は三間四角、銅板葺、宝形造で、本堂裏には星松の大本があります。境内には、文久元年（1861）に建立された立派な一字一石供養塔をはじめ、修行大師像や不動明王像、石造十三重塔などが並んでいます。山門を入りすぐ西側にある地蔵石仏は、元文2年（1797）造立で、背面に大きく十字型を浮き彫りにし、隠れキリシタン地蔵とも云われており興味深い石仏です。

第5霊場



河上山 久字寺
本尊 釈迦如来
西国本尊 白衣観世音菩薩
宗派 曹洞宗
住所 加西市上茶田町982

文安3年（1446）瑞翁性光禪師の開基と伝わるお寺です。赤穂義士ゆかりの寺としても有名で、赤穂の花岳寺、東京の泉岳寺とともに三がく寺の一つとして知られています。本堂には、浅野家当主と赤穂義士の位牌が祀られており、大石内蔵助や吉田忠左衛門らの書簡も保存しています。加西市の最北部に位置し、深い緑や紅葉の美しいお寺としても知られています。杉の大本が並ぶ参道は、加西市のふるさと森に指定され、参道脇には開基瑞翁性光禪師の座禅岩が残っています。山門の勇ましい二天像（右多聞天、左持国天）も見所です。（平成20年頃まで本堂は改修中です）

第10霊場



青嶺山 奥山寺
本尊 十一面観世音菩薩
西国本尊 十一面観世音菩薩
宗派 真言宗
住所 加西市国正町15

白雉元年（650）法道仙人が十一面観世音菩薩像を刻み安置したところ、その像が夜々光を放ち村人を驚かせました。その噂が郡に広がり、孝徳天皇の初により伽藍を造営し青嶺山奥山寺と号したことに始まりと伝えられています。市文化財指定の仁王門を抜け参道を進むと、美しい白壁がつつき、左側に地蔵院、右側に不動院があります。その先石段付道は、紅葉の名所として有名で秋には多くの人で賑わいます。石段を登ると本堂があり、後方に多宝塔がそびえています。多宝塔（県指定文化財）は宝永6年（1709）建立で、近年解体修理が行われ、緑の木々の中に朱塗りの美しい姿を見せています。

第11番霊場



尾崎山 光福寺

本尊	阿弥陀如来
西国本尊	准胝観世音菩薩
宗派	天台宗
住所	加西市別府町1460

第12番霊場



白龍山 宗寿寺

本尊	地藏菩薩
西国本尊	千手観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市玉野町488

第13番霊場



高室山 西福寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	二臂如意輪観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市北条町東高室222-1

第14番霊場



潮湧山 寶泉寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	聖観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市鎮岩町500

第15番霊場



快樂山 佛名寺

本尊	阿弥陀如来
西国本尊	十一面観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市西横田町266

第16番霊場



祝融山 多聞寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	十一面千手千眼観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市尾崎町288

第17番霊場



梅林山 常泉寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	聖観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市中西町358

第18番霊場



青面山 金剛寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	青面金剛明王
宗派	曹洞宗
住所	加西市野条町820-1

第19番霊場



象王山 大願寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	千手観世音菩薩
宗派	黄檗宗
住所	加西市鶴野町1071

第20番霊場



大行山 百代寺

本尊	薬師如来
西国本尊	如意輪観世音菩薩
宗派	真言宗
住所	加西市紫昌町828-8

第21番霊場



大慈山 福性寺

本尊	阿弥陀如来
西国本尊	聖観世音菩薩
宗派	真言宗
住所	加西市桑原田町471

第22番霊場



如意山 密蔵院

本尊	如意輪観世音菩薩
西国本尊	如意輪観世音菩薩
宗派	真言宗
住所	加西市綱引町881-42

果道東側、高い石段の上に建っています。正中2年（1825）当市の普光寺達楽院住職實成律師の開基と伝えられています。急な石段を登り薬医門をくぐると右に本堂、左に客殿があります。山門、本堂、客殿とも屋根は銅板葺で、美しい緑色の屋根は、白壁に映え、周りの木々に溶け込むような色彩です。本堂は、正面8間、側面8間で、屋根は宝形造となっています。住教大師出家得度1200年を記念し改築工事が迫られ、昭和60年に完成しています。本堂の南には、天台宗の宗祖仏教大師の銅像が立っており、端をはさみ毘沙門天と祀る毘沙門堂があります。

当寺は、開基ははっきりしませんが、昔岡町内字寺山という所にありましたが、永正年間（1504〜）に裁田山城守が当地に移したと伝えられています。山門を入り正面に本堂、東に庫裏、西に客殿を配しています。本堂は、入母屋造りで下屋根は瓦葺、上屋根は鉄板で覆っています。客殿は入母屋造の妻入りで、正面に玄關を付けているため二重の妻入りとなっており、珍しい構造です。また、妻部頂の2つの虎瓦は表情がユニークです。本殿、客殿、山門とも昭和初期の建立です。山門前は保育園になっており、いつも子供たちの元気な声が響いています。	

承応元年（1652）門入南教和尚開基で、開基当時は岡町の中央付近にありましたが、正徳2年頃（1712）当地に堂宇を新築したと伝えられています。境内は、山門正面に本堂、右隣に庫裏、左に鐘堂があります。庫裏前の庭に並ぶ石造の羅漢像は、一休一休の表情が豊かで、見る者を引きつける魅力があります。また、当地北条町東高室は、播州歌舞伎発祥の地で、江戸時代末期には七つの座があり、西日本一円に巡業に出かけ、高室芝居として人気を博しました。本堂西側の墓石群の中には、「菩提塔」「追属塔」と深く刻まれた江戸末期の役者の供養塔が立っています。	

正徳元年（1711）現在の姫路市景福寺第17世住職満庵巨叟の開基で、文化年間（1804〜）鉄山閑随和尚が中興し堂宇を新築したと云われています。本堂は、入母屋造、茅葺鉄板葺となっています。境内には、市内最大級の石造五輪塔や異形の宝篋印塔などが並んでおり、共に江戸期の作と思われる。潮湧山宝泉寺という山寺号は、当寺の南にある「潮の井」と呼ばれる井戸にちなんだもので、潮の井は別名「ぶつぶつさん」とも呼ばれ、堂内の井戸からぶつぶつと泡が湧いています。太古の昔から、少彦名命が熊野灘から潮水を送り焼けていると伝承されています。（造路は17番霊場常泉寺〜）	

明暦元年（1655）毛利長州藩の菩提寺である功山寺8世俊山如秀大和尚が開基し、弟子の俊全が後を継いで寺門を興立したと伝わっています。山門は、寛政9年（1797）に建てられた薬医門で、屋根は切妻造で両脇に袖堂が付いています。山門の本柱は長い歳月を感じさせる本肌です。山門をくぐると本堂があり、西側に観音堂、その奥に開山堂があります。本堂は、寛政8年（1791）に建立で、左半分が本堂、右半分が庫裏となっており珍しい構造で、正面には式台玄關が付いています。	

大坂夏の陣で憤死した猛将後藤又兵衛親子を弔うため、又兵衛一周忌にあたる元和2年（1616）に、棟上・開山したと伝えられています。境内の中央には樹齡160年の山桜の大本がそびえ、中央に本堂、東に庫裏、西に書院と位牌堂などが並んでいます。新築された本堂は荘厳で、ぬ染形頭貫やその上の龍の彫刻、大棟の獅子口などには見ごたえ十分です。山門を入りすぐ右にある石幢を利用した三界万霊塔も見逃せません。また、毎年12月14日には、赤穂義士の小野寺十内と寺右衛門親子の法要が営まれ、2人の長男を今もたたえています。	

当寺は、月岡良内大和尚の開山で、天正8年（1580）三木城主別所氏の一族岩崎佐兵衛の開基と伝えています。周囲よりすこし高くなった台地に位置し、石幢を登ると山門があります。山門妻側の徳魚や屋根上の虎瓦や留蓋瓦などを見事です。本堂は、銅板葺の入母屋造で、本組と白壁の調和が美しい本堂です。当寺は、天正年間別所氏の三木城龍城で活躍した岩崎淳兵衛が居城とした野上城跡とも云われており、お寺周辺の大本は長い歴史を物語り、深い水路や荒々しい石垣は、どことなく城郭の雰囲気と漂わせているかのようです。	

寛政10年（1798）僧長黙開基と伝わる寺院です。山門前には、深く「禁筆酒」と彫り込まれた文化11年（1814）建立の石碑があります。境内には、東に本堂、西に庚申堂が建っています。本堂は、入母屋造で安永8年に建てられています。庚申堂は、寄棟造で正面に向拝を設けており、龍や模様のなどの彫刻に見ごたえがあります。また、正面左右の花頭窓も目を引きます。庚申堂は、青面金剛を主尊として祀るお堂で、寺院境内に当寺のような立派なお堂を持つことは稀で、青面山金剛寺という山寺号にもその名を残しています。	

当寺は、明暦年間（1655〜）に大阪摂津国北中島の三宝寺より天然祥徳禪師を招き創立。当初は臨濟宗の寺院でしたが、2代印光和尚が延宝元年（1673）に黄檗宗に改め、唐僧南溟和尚を開山とし、自らには2代として位持したと伝えられています。黄檗宗は、江戸時代初期に中国の高僧隱元により伝えられた禪宗の一派で、市内には2ヶ寺があります。本堂は、入母屋造、枘瓦葺で、向拝屋根には天女の留蓋瓦が飾っていました。境内には、鐘堂、石造十三重塔、布袋坐像などが並んでいます。らなみに、インゲン豆は開祖隱元が中国より持ち込んだためこの名がついていると云われています。	

天長年間（880）弘法大師空海による開基と伝えられています。村上天皇の初願寺として隆昌を極め、往時には坊舎も百余宇と数えましたが、度重なる兵火により一字を残すのみとなりました。しかし、百代寺の寺号は、面に代わるお寺としての意味と云われています。五重ヶ端と呼ばれる台地に位置し、長い石段を登ると山門があり、正面に唐破風の美しい客殿があります。本堂は客殿の東側に位置し、三間四方の宝形造で、本扉の彫刻は見事です。また、本堂前に並ぶ石造仏の中で、弘法大師が虎の精を持つ精大師と呼ばれる珍しい石仏があり興味深いものです。	

当寺は、元は現在の小野市にありましたが、金鎖城主中村六郎左衛門景長が天文年間（1582）に当地に移したと云い、その後寺は衰えていましたが、寛永年間（1624〜）に東国から来た僧教圓阿開闢によって再興、明暦年間（1655〜）に寺格を持つようになったと伝えられています。ツバキが覆う石段を登ると庫裏があり、東側に本堂が隣接しています。本堂は枘瓦葺、宝形造で、1910年に村中にあった薬師堂を移築したものです。すぐ裏山の基地にある重刹石幢は、貞享4年（1687）建立で姿良く残っており、石幢が少ない当地にとって貴重な石造品です。	

当院は周遍寺の一院で、元は現在の周遍寺のある山上にありました。周遍寺は、白雉2年（651）法道仙人開基という古刹で、多くの塔頭を抱え当地を代表する大寺院でしたが、現在は山上に理智院と町中に当院だけが残っています。本堂は近代の宝室形造の建物になっており、本堂前に薬師堂や小さな釣鐘、弘法大師像などが並んでいます。また、山門前には一基の石幢仏があります。家型石幢の蓋石の内側に蓮華座上に定印と結ぶ阿弥陀像を陽刻しており、鎌倉後期から南北朝期の作と云われ、今も優しい表情で無縁仏を守るように座っています。	

第23番霊場



如意山 周遍寺

本尊	如意輪観世音菩薩
西国本尊	如意輪観世音菩薩
宗派	真言宗
住所	加西市綱引町881-42

第24番霊場



普門山 見性寺

本尊	聖観世音菩薩
西国本尊	聖観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市田原町2605

第25番霊場



無量山 阿弥陀寺

本尊	無量寿仏阿弥陀如来
西国本尊	無量寿観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市西笠原町798

第26番霊場



法華山 一乗寺

本尊	聖観世音菩薩
西国本尊	聖観世音菩薩
宗派	天台宗
住所	加西市坂本町821-17

第27番霊場



興国山 妙蔵寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	生六臂如意輪観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市東剣坂町519

第28番霊場



田富山 常行院

本尊	薬師瑠璃光如来
西国本尊	聖観世音菩薩
宗派	天台宗
住所	加西市山下町1894

第29番霊場



心月山 正禅寺

本尊	釈迦如来
西国本尊	薬師観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市山下町1922

第30番霊場



久斗山 長円寺

本尊	十一面観世音菩薩
西国本尊	十一面観世音菩薩
宗派	天台宗
住所	加西市福居町828

第31番霊場



大安山 正栄寺

本尊	阿弥陀如来
西国本尊	千手観世音菩薩
宗派	曹洞宗
住所	加西市西谷町879

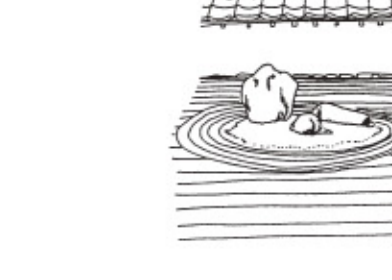
第33番霊場



泉生山 酒見寺

本尊	十一面観世音菩薩
西国本尊	十一面観世音菩薩
宗派	真言宗
住所	加西市北条町北条1819

第32番霊場については、寺院の都合により掲載出来ませんので掲載しておりません。



当寺は、白雉2年（651）法道仙人が草創したという古刹で、中世には七堂伽藍を備えた当地有数の名刹として栄えました。しかし、天正6年（1578）羽柴秀吉軍の兵火にかり伽藍と焼失、天和2年（1682）に地元の里長高田六郎右衛門正徳兄弟らにより再興しました。現在は、本堂や北隣の開山堂、庫裏西側の大師堂や鐘堂などが建っています。その周りに四国霊場八十八ヶ所のぐりが整備されており、道中には仲興の祖高田氏が寄進した石造多層塔が残っています。また、境内からは、天竺の良い日には遠く明石海峡大橋や淡路島などを望むことが出来ます。

北条鉄道田原駅と下車し北側の集落を望むと、大きなお寺の屋根とイチョウの大本が見えます。当寺は延宝2年（1674）に創立、蓮きにより開山されたと伝えられています。山門へつづく石段には宝永4年（1707）の銘があり、8本のシュロの木が並木のように植えられています。本堂は、向拝付入母屋造、銅板葺で、昭和58年に改修がなされており堂々とした本堂です。山門を入り右側には、かなり古そうな石仏8体と地藏尊像、左側には不動明王像と鐘堂が並んでいます。さらに左へ進むと幹周り4mを超えるイチョウの大本があり、秋には黄金色に色付き美しく輝きます。	

当寺は、元禄7年（1694）赤松本堂の開基で、宝暦年間（1751〜）に当寺8世金明和尚が、地元の人々と協力し、寺録・裡家の様式を備え、寛政10年（1798）に完全な寺格を得る事になったと伝えられています。山門は、下部を白塗りの土蔵宮門と呼ばれるもので、当地下には珍しい山門です。本堂は、昭和7年に建立されたもので、本堂前には曹洞宗の開祖元禪師の坐像があります。また、山門前の一角には「あごなし地藏」と呼ばれる石仏があります。明治の初め、当村の平七という人が隠岐島より拝請したという仏で、首から上の病氣にご利益があると信仰を受けてきました。	

白雉元年（650）天竺の高僧法道仙人開祖と伝わる古刹です。西国観音霊場第26番の札所としても知られ、一年を通じて全国から多くの巡礼さんで参拝者が訪れます。県内でも有数の文化財にも恵まれ、石造五輪塔、石造笠卒塔婆、常行堂、三重塔、鐘楼、本堂、護法堂、妙見堂、弁天堂、石造宝塔、開山堂、石造九重塔や多くの絵画、仏像などを有しています。特に三重塔は、承安元年（1171）建立の果下最古の塔で、国宝の指定を受けており見事です。また、秋は紅葉の名所としても知られています。（平成19年頃まで本堂は改修中です）	

元は、光谷山明言寺と称し真言宗のお寺でしたが、永禄8年（1560）に快表禪師が禪宗に改め、岡村谷ノ坊にあった堂を現在の地に移し興国山妙蔵寺と改めたと伝えられています。手入れされた庭は美しく、屋根の葺き替え時に降りされた宝珠露盤や大きな虎瓦などを見ることが出来ます。山門前にある「不許入葷酒」と刻まれた境界石は、家型石棺の蓋石を利用しており珍しいものです。また、お寺前には、戦前まで「鳳剣梅林」と称えられた梅林がありました。現在も寺周辺には、新たに植栽された梅林が広がり、春先には美しい梅の花を楽しむことが出来ます。	

当寺は、昔この地にあった田富山田福寺の一院で、聖徳太子の開基、法道仙人が伽藍を造営したと伝えています。天武天皇の時代（670頃）、国中の僧が凶作に見舞われた時、当寺本尊に祈願したところ、突如は除かれ豊作となったため、帝より「田富山田福寺」の山寺号を賜ったと云われています。本堂は、寛文8年（1668）建立で、本瓦葺屋根、正面建具は枘唐戸となっており風格があります。本堂左手には、庫裏と鎮守堂、背後に不動明王堂と開山堂などが建っています。庫裏の庭先には、宝徳8年（1451）に建立され、当寺の長い歴史を見守り焼けてきた石造七重塔(市指定文化財)が立っています。	

明徳元年（1390）南朝の匡輔正勝と提原景祥が一寺を建て、互いの名の一字ととり正禅寺と称したと云い、その後、兵火にかり衰退していましたが、甲斐の武田氏の遺臣山下源之丞宗晴と云う人が当地に居住し、慶長2年（1597）に堂宇を再興したと伝わっています。境内は、中央に本堂、東に客殿、西に観音堂、南に鐘堂と山門が並んでいます。山門は、本瓦葺の薬医門で、両側前方に小屋根付きの築地堀があり格調高い山門です。また、観音堂は、加東郡の清水寺より観音仏を勧請し明治6年に建立しました。本堂、客殿も近年改修され、美しく整然とした伽藍です。	

当寺は、白雉年間（650〜）法道仙人開基という古刹です。その後、火災に遭い堂塔を消失しましたが、正暦年間（990〜）に長円上人が再興しました。その当時、山内は七堂伽藍が並び荘厳を極めたと云います。しかし、天正5年（1577）に兵火にかり伽藍と焼失、延宝6年（1678）に本堂を再建し現在に至っています。山門正面に本堂、北隣に庫裏、南隣に太子堂と大日堂が並んでいます。本堂裏の山裾には、「寄盛逆修」と刻まれた阿弥陀三尊種子板碑（市文化財）や赤松政則の供養塔と伝える石造品などが残っています。	

当寺は、天文年間（1582〜）の創建で、天正年間（1578〜）に兵火にかり堂宇と焼失。その後、寛永年間（1624〜）に洞暦和尚が再興したと伝えられています。石段を登ると山門があり、正面に本堂、東に庫裏、西に禅堂を配しています。本堂は、入母屋造、本瓦葺で、正面に向拝を設けています。18世紀初頭の建立と云われており、長い歴史の趣を感じさせます。また、境内に立つ石造宝塔は、重厚感があり見逃せません。参道には桜の木が植えられ、春には美しい桜が訪れる人を楽しませてくれます。	

当寺は、天平17年（745）行基がこの地を訪れ、酒見明神の神託により伽藍を建立したことに始まると伝えられています。以後北条の町は、当寺と、隣接する住吉神社の門前町として発展してきました。山門は、文政8年（1825）に再建された様門で、山門をくぐり参道右側に、地藏堂、多宝塔、観音堂、左側に常行堂、正面に本堂が建っています。多宝塔は、上層が桧皮葺、下層は瓦葺としており、塔全体に装飾文様と極彩色で描き、全国でもっとも美しい多宝塔とも云われています。国の重要文化財指定を受けています。加西西国霊場の結願寺として、歴史と偉容と誇る名刹です。	

発行 加西市観光協会 兵庫県加西市北条町模尾1000 電話　0790-42-8823 協力　加西西国三十三ヶ所霊場寺院	

